

思いやりと感謝一人・生きもの・全てのものへ

いたばし
ビオトープ
ネットワーク

学校訪問シリーズ 11

～ありがとうと言える
子どもを育てる～
板橋区立緑小学校



緑小といえば、サンシテイ団地。サンシテイ団地と言えば、緑が多いというイメージがわく。板橋区中台3丁目 東丘陵遺跡が、1976年（昭和51年）に発掘された。今のサンシテイ団地がその場所である。入居1年前のことである。この周辺地域では、開発に伴い、計5ヶ所の発掘調査が行われた。その結果、サンシテイ団地の地域から、縄文前期の住居跡（6000年前ごろ）、同期の土穴・弥生後期の住居跡・奈良、平安の住居跡などが発見されている。すぐ東隣から、中台畠中遺跡も発掘され、旧石器時代の竪穴住居跡や燧石の石器・鉄・銅などが発掘されている。敷地約10万m²。緑地は4万5千m²。敷地の46.3%を占め、樹木数5万本、うち182本が保存樹林だという。緑と遺跡群の上に立っているのが、現在の緑小学校である。この地域は、かつて、大正7年に東京瓦斯電気工業志村火薬工場がスタートし、昭和7年には東京火薬工業と名乗り、旭化成の前身、日窒化学工業を経る間、火薬庫の森と呼ばれていたそうだ。

前段が長くなったが、私たちは、今の緑小学校が、サンシテイの団地内のSGV（サンシテイグリーンボランティア）の方々との協力で、ユニークな授業を展開していると聞いて学校に取材に伺った。2月には板橋区環境なんでも見本市にこの活動について出展している。



早川勉校長先生

Q 今の子どもたちの様子はいかがですか。

早川勉校長先生一今、466名の子どもたちがいます。着任当時、勉強中心の子どもたちだと感じました。自然体験が足りない。小3位から塾通い。夏のプールも塾のことを考慮せざるを得ないのです。夏休みの補習を午前中3時間、5日間連続取り縮んでいます。ほぼ、全員出席しています。校内の活動や特別活動もよく行い、思いやりもあるし、素直でいい子です。強いて言えば、指示待ちしやすく、時間の管理を自分で行うところが今ひとつでしょうか。

Q 先生方・保護者の協力はいかがですか。

早川勉校長先生一先生方は熱心です。学校診断アンケートは、回収率97～8%です。保護者の方々は、学校教育を理解して協力していかうとしています。

Q 学校選択性による教育への影響は？

早川勉校長先生—1年生が3クラスで、そのうち3分の2、全校では6割以上が区域外から通学しております。今年度1クラス増、来年も1クラス増が予定されています。そこで、登下校の安全が心配で、警察の協力の下、不審者情報を登録制で保護者の携帯電話に流しているところです。また、サンシテイ団地内のガードをする人や、スクールガード、見守り隊の方の協力が大きいです。

Q 環境教育を熱心に取り組んでおられると伺っていますが、どのように行われていますか。

早川勉校長先生—3年生では、板橋の学校の1品として、しいたけの栽培を行っています。サンシテイのボランティアの方々の協力で、菌を打ち込み、水遣り、2年以上で収穫。給食で全校児童が食べています。区民祭りに出品、原木を展示しています。年1回グリーンボランティアの方々を招いて、昔の遊びや給食などの交流会もやっています。

団地内の落ち葉を集め、竹林の中で堆肥も作っています。その堆肥を団地内の5万本の木に撒いています。また、地内の樹木を見に来た樹木医に学校の樹木も見てもらっています。

3、4年生が、竹を使って はし作りや、やじろべえ、鉛筆立て作りに取り組んでいます。はしは乾燥したときに反らないように、最後に火であぶって仕上げます。そのはしを子どもたちが給食で使っています。



しいたけ栽培のコマ打ち

見事に育ったしいたけ

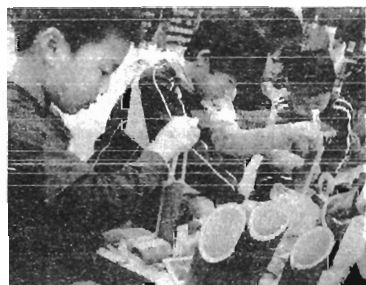


農家のしいたけ栽培のようですね



雑木林の手入れ
(グリーンボランティアの方々と)

竹から、見事なはしを作ってほらー



竹細工、鉛筆立て作り



わらで縄作りーすごいねー

1～2年生はやじろべえ・焼き芋に取り組んでいます。

5年生が米作りから、わら細工に挑戦しました。米はバクツやトロ箱で育てています。

米は88の手がかかることを学び、自分たちで収穫した米を1升ビンに入れて上から棒でつき精米しました。それからというもの、こめ粒を見ると感動しています。

わら細工は縄作りを教わり3時間かけて縄をないました。そ

れで、校庭で大縄とびを行いました。どれもSGVの方の協力があったの学習活動です。

環境美化として、地域内清掃もやっています。学校の周りを地域のボランティアの方と一緒に清掃しています。ここは広域避難所でもありますので、発電施設があるし、燃料もある。水はいつも、地下水をくみ上げて避難民の飲み水を確保しています。その水を使って、ピオトープにも流しています。

Q 先生が、今後子どもたちへ伝えていきたいものは何でしょうか。

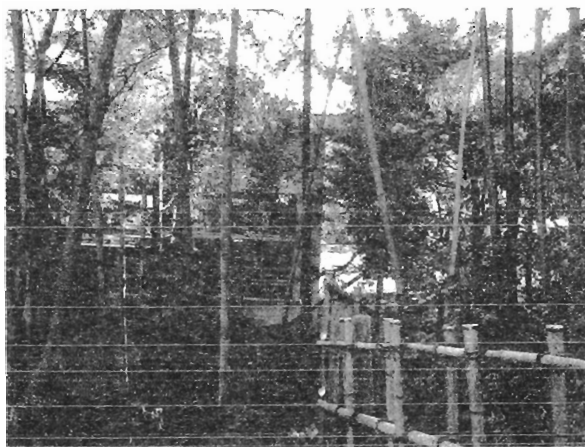
早川勉校長先生—先生方も同じ考えですが、思いやりと感謝です。この言葉の中に、今の子どもたちに必要なものが入っています。思いやりは、やさしさだけでなく、先生が子どもたちに伝えたい辛口もある。感謝は、ありがとうを人・生きもの・物全てに言えるような子どもを育てたいです。

高野美紀先生—新採4年目です。自分が育ってきた飯能の環境に近いものがこの地域にあります。これを生かして、木や草を使って、ネイチャーゲームをしたり、ふれあいをさせたりしたいです。3～4年生など、フィールドビンゴや鳥の鳴き声に関心を持たせる指導をしたいと思っています。

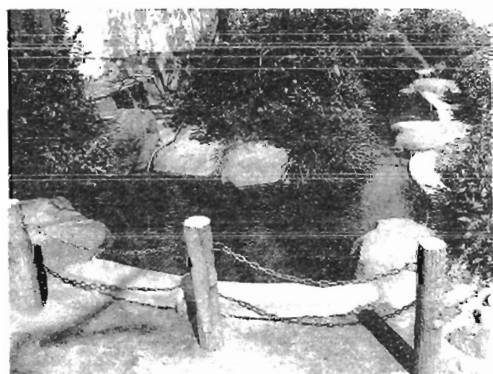
—緑地が5割に近いと言う恵まれた自然環境の中の学校として、地元ボランティアの方々とさまざまな環境活動を展開している緑小学校。太古からの緑の森の歴史を連綿とつなぎ、地域環境・住環境を守るコミュニティ作りとして、数々の賞に輝くサンシテイ団地のグリーンボランティア活動は学校の教育にも大きな力を発揮しており、東京における都市部の学校として目指したい力強いモデルを示しているのではないのでしょうか。—



校地内に生えている大きな竹の子



緑小の周囲の豊かな自然は地域と学校が守り育てている



地下水を利用したピオトープ



センスオブアースは、東京都板橋区と沖縄を拠点とするNPO法人です。

www.npo-soe.jp または npo-soe.jp へアクセスしてください。

